

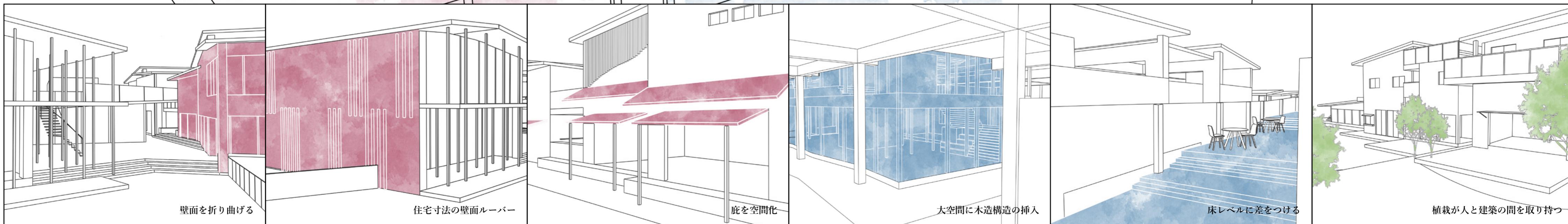
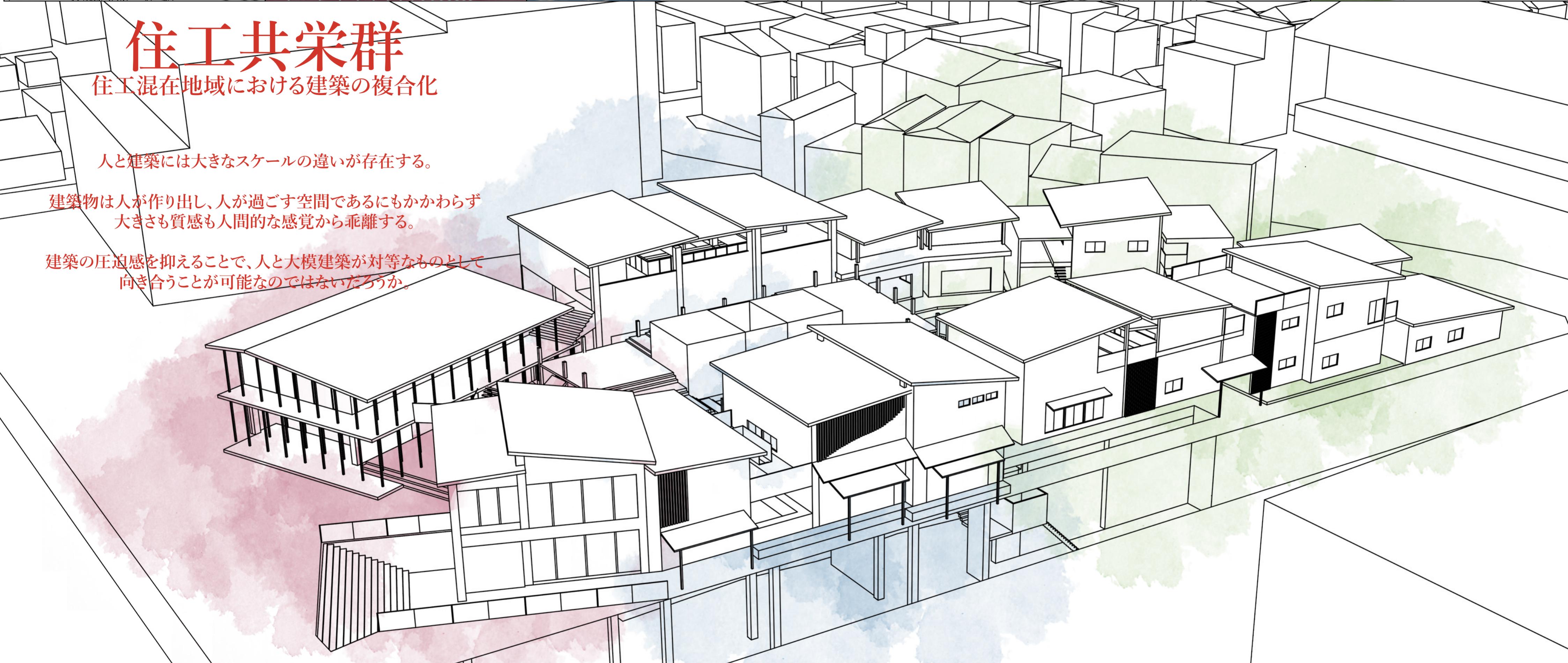
住工共栄群

住工混在地域における建築の複合化

人と建築には大きなスケールの違いが存在する。

建築物は人が作り出し、人が過ごす空間であるにもかかわらず
大きさも質感も人間的な感覚から乖離する。

建築の圧迫感を抑えることで、人と大模建築が対等なものとして
向き合うことが可能なのではないだろうか。



壁面を折り曲げる

住宅寸法の壁面ルーバー

庇を空間化

大空間に木造構造の挿入

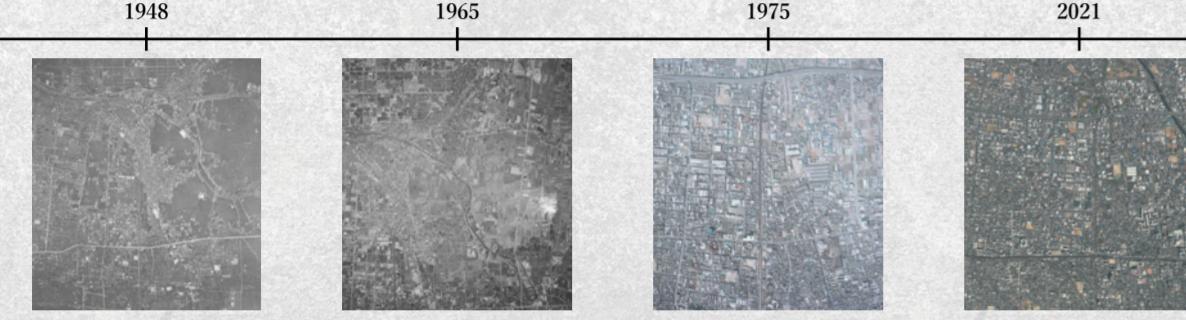
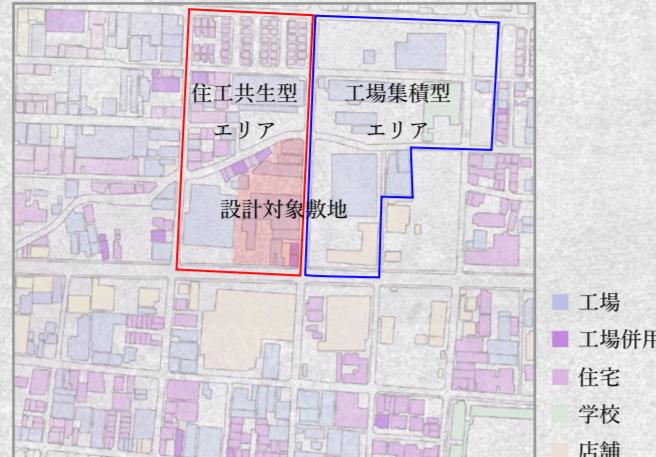
床レベルに差をつける

植栽が人と建築の間を取り持つ

敷地 モノづくりのまち 高井田

大阪府東大阪市高井田では、多くの中小企業が立地する。しかし、近年では不況等の影響から工場が廃業・移転し、跡地に住宅が建ち、地域の状況を知らない新住民や町工場に無関心な住民流入し、住工混在問題が顕在化している。

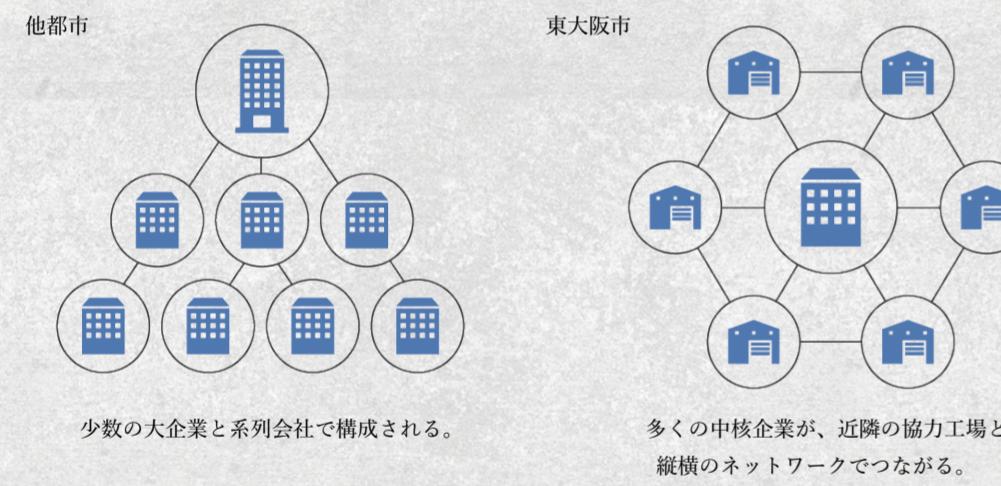
工場と住宅というスケールの異なる高井田において、スケール操作の側面から建築を設計することで住工混在問題を解決する。工場、住宅、商業の複合化建築を提案し、産業の発展にも寄与することを目的とする。



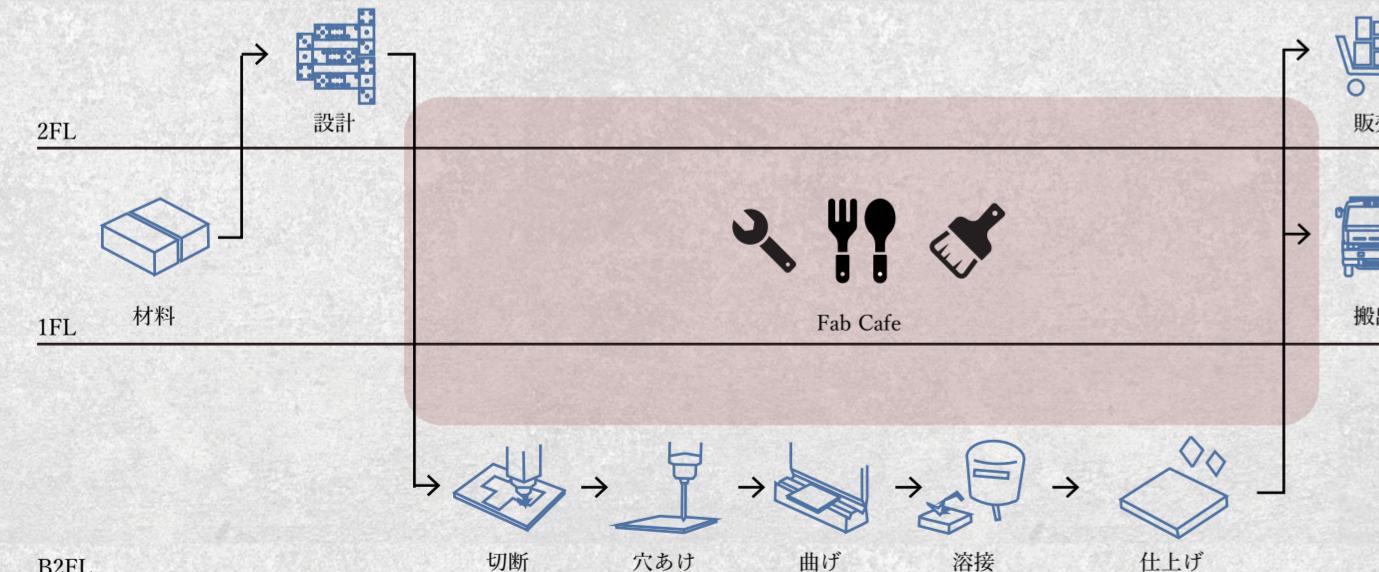
東大阪独自の企業ネットワーク

大企業との系列をもたない企業が約9割を占め、近隣の協力工場との多様なネットワークを構築する。有機的な分業システムを形成することで、各企業が専門分野に特化し、独自技術を向上させてきた。

地上では貸工場を設置し、起業の手助けや工場体験のイベントに利用する。地下工場では、高井田地区で盛んな金属加工の板金工場の設計を行う。作業工程ごとに空間を分節し、その分野に特化した職人や企業を集積させ、ネットワークの構築を図る。

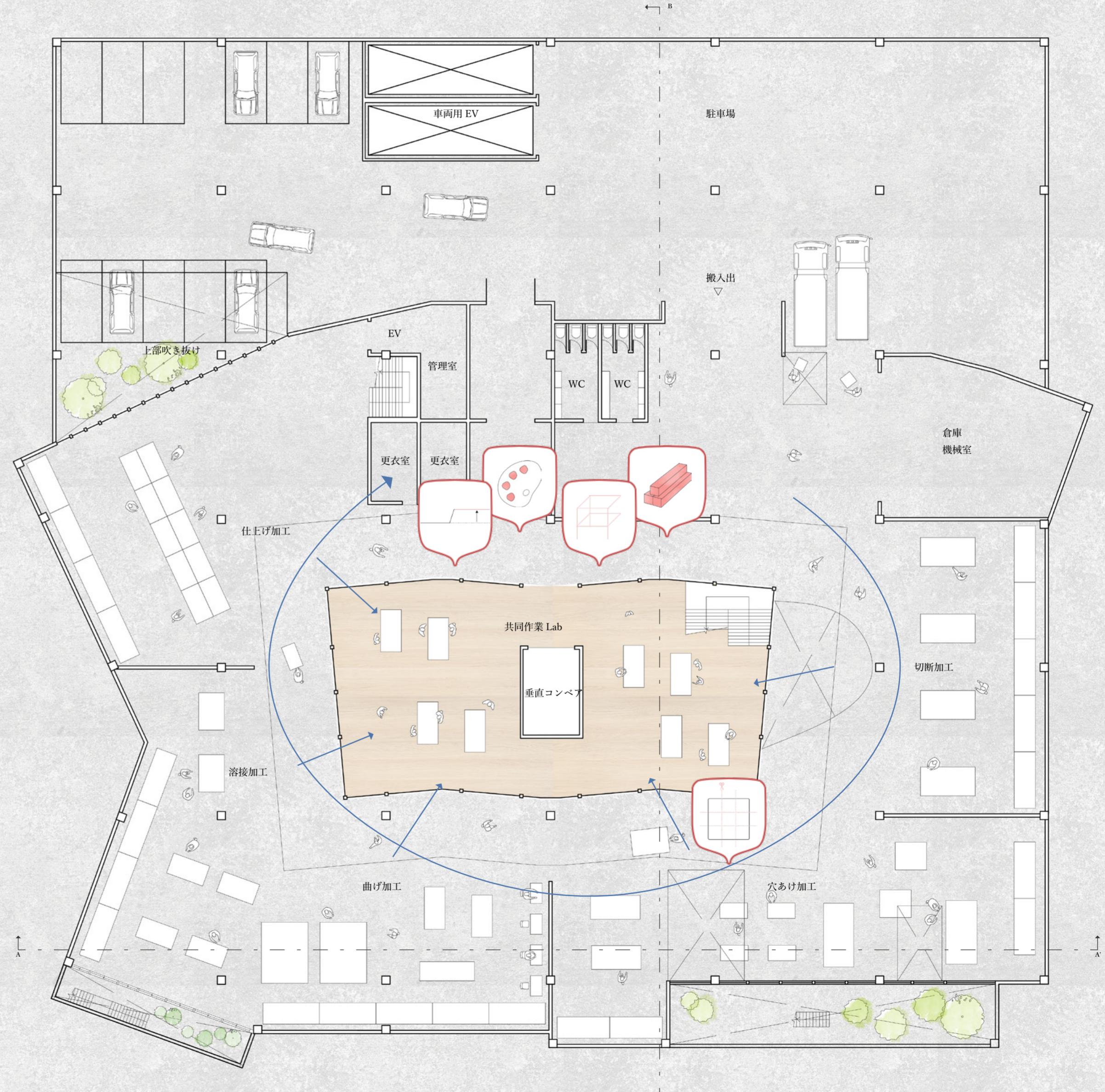


板金加工の工程

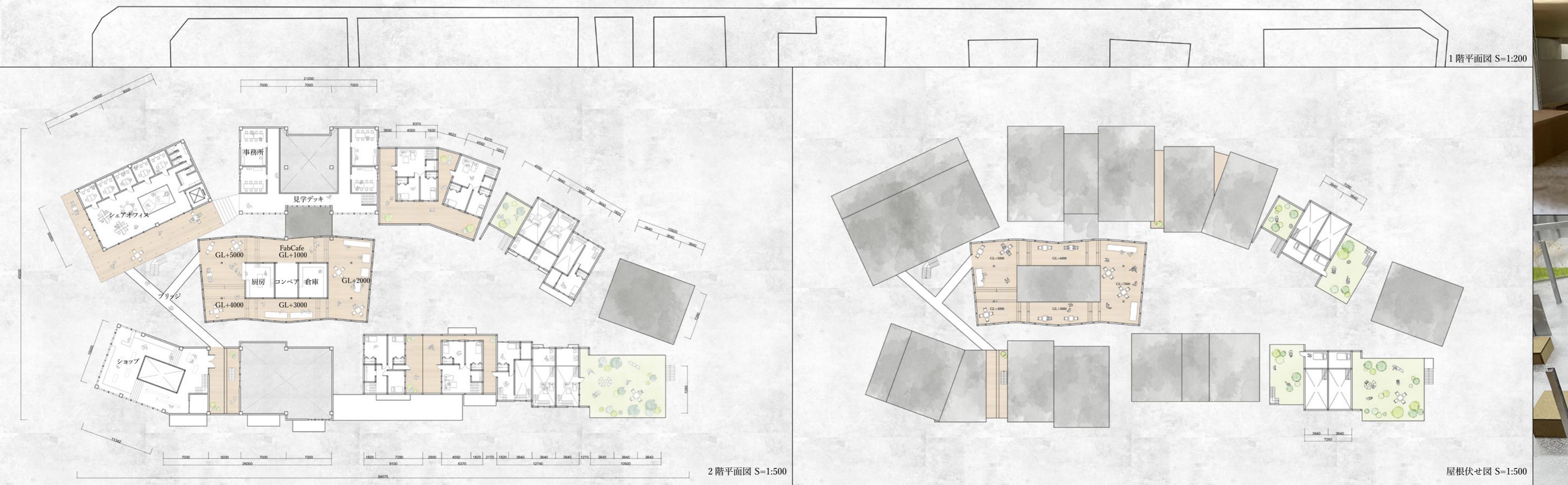


板金の工程を人の動線と対応させながら配置することで、建築を訪れた人が歩きながら工程を学ぶことができ、工場内部の仕組みについての理解を深めることができる。道路、アプローチから見える位置に、材料展示、設計オフィスを配置し、加工段階での騒音等の住工混在の問題に対応するため、切断～仕上げは地下に配置した大工場に配置する。

FabCafe空間が、モノづくりと食空間を融合し、地下と地上=「街と工場」を繋ぐ。



地下2階平面図 S=1:200





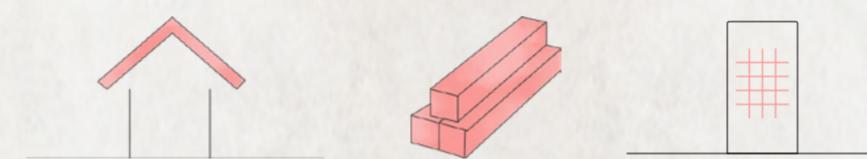
図書コーナー

道路沿いから見る

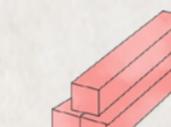
地下中央部



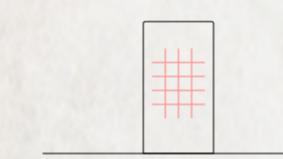
家具



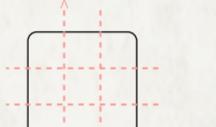
屋根



素材



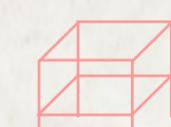
ファサード



空間分節



色彩



構造

階段の蹴上、踏面を椅子の寸法に類似させ、壁へと延長させることで、階段に座る場所や棚という家具としての役割を持たせる。人の寸法感覚に近い家具と建築の境界を曖昧にする。

庇が小さな空間を作り、街の人との交流のきっかけになる。壁面は複数個に分割したファサードデザインとすることで建築から受け取る印象を、柔らかいものとする。

大空間が必要となる工場部分に、木造の住宅で用いられる寸法間隔の構造を挿入することで空間を分節する。また木造の落ち着いた色彩がコンクリートの均質で無機質な色を緩和する。



アプローチ

住宅エリア

Fab Cafe 地上部



分棟



配置



折り曲げ



曲線



自然



レベル差

住宅スケールのボックスを数個ずつ組み合わせて分棟型にし、配置や折り曲げを用いることで、一つの建築として捉えるスケールを人が馴染みのある住宅サイズまでスケールダウンする。

植栽が人と建築の高さの間を取り持つ役割を担う。道路空間を曲線に仕切ることで、人の動線を誘導しながら、専用住宅エリアに人の介入を防ぐ。

床にレベル差を付け、地下から螺旋状に地上へと連続していく。レベル差をつけることで視線に入る景色が移り変わり、建築の持つ印象にばらつきを持たせる効果がある。